

## 演者プロフィール

### コラド・ロドヴィコ・ガリ博士 (Prof. Dr. Corrado Lodovico Galli)

ミラノ大学 教授 (薬理科学部)

主な研究領域は、さまざまな化学物質や環境因子 (食品添加物、食品中のアレルゲン、残留農薬、汚染物質等) の存在下での低用量化学物質の暴露を、分子生物学の最新手法 (ゲノミクス、プロテオミクス等) を用いて研究すること。その目的は、化学物質への暴露が被曝者にどのように影響を及ぼすかを予測する研究を促進することにある。

< 現在および過去に務めた主な科学諮問委員会、委員会、パネル等 >

国際がん研究機関 (IARC) 「発がん物質のリスク評価と作用機序」専門家グループ メンバー (IARCは世界保健機関傘下の組織の一つ)

欧州食品安全機関 (EFSA) 科学委員会メンバー

欧州食品安全機関 (EFSA) 科学委員会の中の、「化学物質評価へのTTC概念の適用可能性に関するワーキンググループ」のメンバー

### ミッチェル・チーズマン博士 (Dr. Mitchell Cheeseman)

Steptoe & Johnson LLP ワシントン事務所 取締役、元FDA職員

米国食品医薬品庁 (FDA) での20年に及ぶ勤務の中では、米国食品安全・応用栄養センター (CFSAN) の幹部をはじめ、食品添加物および食品摂食材料、着色料、GRAS成分、およびバイオ食品の規制の一義的な責任を伴う“食品成分と容器包装プログラム”を担当した。

チーズマン博士は、TTCの規制への確率論的リスク評価の活用に関するワーキンググループ、ワークショップ、国際会議に招へいされている。発がん性に関係する危険部位構造についてのチーズマン博士の研究は、FAO/WHO合同食品添加物専門家会議 (JECFA) によって食品香料の規制に適用され、FDAによって食品摂食材料の規制に適用されている現行のTTCの中のがん閾値にとって、一次的な基盤となっている

### <コーディネーター> 広瀬 明彦 (Dr. Akihiko Hirose)

食品安全委員会 化学物質・汚染物質専門調査会専門委員、器具・容器包装専門調査会専門委員

国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 総合評価研究室長

医学博士。産業用化学物質や飲料水/食品等の汚染化学物質の有害性及びリスク評価を専門としている。主要業務としては、化審法における化学物質審査における化学物質安全対策部会化学物質調査会の専門委員とOECD化学物質共同評価プログラムにおけるCoCAM会議の日本政府専門家として活動している。食品安全委員会においては化学物質・汚染物質専門調査会汚染物質部会専門委員と容器包装専門調査会の専門委員、厚生労働省では水質基準逐次改正検討会と食品衛生分科会器具・容器包装部会の委員も勤めている。現在の主要な研究テーマは、化学物質リスク評価における構造活性相関手法の開発、およびナノマテリアルの健康影響評価手法の開発、リスクアセスメントにおける用量反応評価手法の開発などである。